

- 「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、農林水産業の成長産業化により、農業・農村の所得倍増を目指すとともに、食料自給率・自給力の維持向上を図ることが最重要課題。
- このため、研究開発の枠組みやプロセスを見直すことと併せて、イノベーションが主導する農林水産業の成長を実現するための基盤を大幅に強化するために必要な予算を要求。

施策の方向性

今後の研究開発の方向（平成27年度要求における主な事業の概要）

【骨太の方針】

- イノベーションによる農業の成長産業化
- 革新的技術シーズを事業化に結びつける橋渡し機能強化、技術シーズ創出力の強化

【日本再興戦略】

- オープンイノベーションを強力に推進するための環境整備
- 生産・流通システムの高度化による農業の生産性の向上（ロボット技術の活用等）
- 畜産・酪農の成長産業化のための「新技術の開発」

農林水産業・地域の活力創造本部においてプラン改訂（平成26年6月24日改訂）

【地域の活力創造プラン】

- オランダのフードバレーを参考とした産学官の「知の集積」の場の構築
- ロボット技術やICTを活用したスマート農業について研究開発を推進
- 所得倍増や自給力向上に向けた重点課題の技術戦略の策定及びその実行
- 産学の英知を結集した革新的な技術体系の実証研究を推進
- 異分野との連携・融合が有効な研究を実施し、事業化が有望な研究成果を創出

プランの具体化

民間活力等を活かした「知の集積」の推進

- 農林水産・食品分野の知を結集させた産学連携の更なる強化のための新たな仕組みを検討。

- 生体内の代謝物質を網羅的に分析できるメタボローム解析等の革新的分析技術を活用した食品基盤技術の開発等を支援。

- 生産現場や民間のニーズに基づき、民間企業等による事業化促進に向けた研究開発及び異分野と融合した研究開発を強化。

「攻めの農林水産業」の展開に資する革新技術の開発

- 現場のニーズを吸い上げつつ、収益力の向上、生産・流通システムの革新、温暖化への適応等、生産現場を強化する研究開発を戦略的に推進。



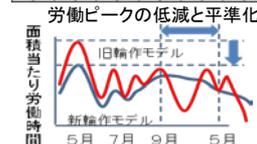
日持ち性に優れる品種開発、鮮度保持に優れる梱包資材の開発

種類	収穫部位	TDN含量	家畜
アイコン	雌穂(芯、穂皮、子実)、茎葉の一部	約80	牛
コーンコブムックス(CCM)	子実、芯の一部	約90	牛 豚

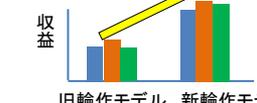
栄養価の高い国産自給飼料の開発と安定供給技術の開発



土地利用型作物の安定多収栽培技術の開発

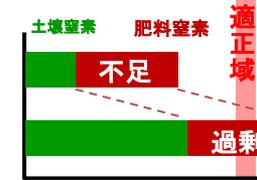


労働ピークの低減と平準化



土地利用率向上と規模拡大で収益向上

水田経営における野菜等を導入した高収益輪作技術体系の開発



化学肥料を低減する土壤窒素評価法の開発

イノベーションが主導する農林水産業の成長を実現

※平成26年8月要求時点の内容である。

平成27年度概算要求の概要

(百万円)

区 分	平成26年度 当初予算額	平成27年度 概算要求額	対前年度比
一般会計	97,818	107,669	110.1
科学技術振興費	92,762	96,163	103.7
その他の科学技術関係予算	5,056	11,506	227.6
復興特別会計	7,894	7,641	96.8
科学技術振興費	2,803	2,646	94.3
その他の科学技術関係予算	5,091	4,996	98.1
合 計	105,712	115,311	109.1